

日本の教育や未来 ゴリラから考える

諏訪季節大学会講座 山極さん講演

第380回諏訪季節大学
会講座（諏訪教育会、諏訪
6市町村など主催）は23
日、諏訪市文化センターで
開いた。霊長類学者で理学
博士、総合地球環境学研究
所所長の山極壽一さんが
「ゴリラに学ぶ人の進化と
未来」と題して講話。諏訪
地域の教職員を中心に約8
50人が聴講した。

（松本佳林）

山極さんは日本モンキーセ
ンター研究員や京都大学総
長、国際霊長類学会会長、日
本学術会議会長などを歴任。
人類進化論を専攻し、屋久島
で野生ニホンザル、アフリカ
各地で野生ゴリラの社会生態
学的研究に従事した。

講演では、ゴリラと人間の
子育てを比較して「人間は離
乳が早い成長には時間がか
かる。子ども期と青年期があ
るのも特徴」と説明。「共同
保育が必要で、目の表情から
気持ちを読み、他者と触れ合
うことで共感能力や学習能力
が強化される」と語った。

現在の学校教育について
は、気候変動、社会変動など
予測不能な現実に対応する
「外部へ開かれた仕掛け」
が足りないことを主張。地域
や状況ごとの体験を通じた
学びによって「生きる力を
育てることが大切」と呼び掛
けた。

また、人間の本質を「心身
が小規模な社会の暮らしに適
応している」「狩猟採集による
シェアとコモンズが基本」な

と解説。デジタル社会の到
来によって「共感などの情緒
的社会的性が希薄になってい
る」と指摘し、「新たな社交
による文化の再構築が必要」
と訴えた。



ゴリラ研究から考える日本
の教育や未来について講演
する山極壽一さん